



清俗紀聞

第一

年中行夏	目次	卷之一	禮帙
------	----	-----	----

77
3316
1



3316
1

己未年

藏版

清俗紀聞

全部

十二卷

東都書肆

翫月堂發

早稻田大學圖書館
昭和35.1.28
藏書

江都
石印
林藏
本之
製

清俗紀聞序

邦之於清國也壤地不接洋溟為阻屹
然相峙不通使聘各為一區域則其土風
之異俗尚之殊何預我耶然閩浙之民航
海抵崎貿易交市以彼不足資我有餘
國家亦不禁焉朱明以還因仍已久其間
不能無黠賈奸商干紀之虞則亦不可未

序

清俗紀聞

會

之小吏也於是 官特置司以治之豈得
已乎是故承斯任者非知彼土風俗尚以
洞曉利害情偽之所在則亦無以宣我之
政而服彼之心焉此則其所當留意也曩
者飛驒守中川君子信在任于崎也釐務
之暇命譯人詢彼土風俗尚探討搜究而
叢為清俗紀間手自點定自節序之儀吉

凶之禮輿服之制黷舍之法以至居室飲
饌器財玩具日用人事之微旁逮緇黃之
俗部分臚列獵採罔遺洵稱綜該矣後之
官于崎者留意是書則可以免彼此齟齬
之患而所為皆中窾矣豈曰小補乎哉子
信余忘季交也天資高朗夙耽墳籍其才
之學之優將大有所為願此等編纂瑣

末事原無湏揄揚但其一任不苟必期拔
本塞源如此則佗所注措可知也宜乎政
績烜赫物望歸焉纔踰兩載累被擢遷也
抑夫海西之國唐虞三代亡論也降為漢
為唐其制度文為之隆尚有所超軼乎萬
國而四方取則焉今也先王禮文冠裳之
風悉就掃蕩辮髮腥膻之俗已極淪溺則

彼之土風俗尚寘之不問可也而子信之
有斯撰自有不得已者也余觀今之右族
達官貴游子弟或輕佻豪侈是習而遠物
珍玩是貴即一物之巧寄賞吳船一事之
竒擬摸清人而自詫以為雅尚韻事莫此
過焉吁亦可慨矣竊恐是書一出或致好
竒之癖滋甚輕佻之弊益長則大非子信

之志也余為之序竝以告覽者其豈欲歎
歎哉蓋亦有不得已者也寬政十有一年
秋朔月述齋林衡撰

吉田直躬書

清俗紀聞序
中君子信之尹瓊浦敷化之暇命譯吏
就清高于館問彼民俗吉凶之儀節及
其名稱度數即使侍史國字記之又命
畫師一一圖之編次成書名曰清俗紀
聞為卷六分都十三夫國於天地而有
與立焉日月彞倫維諸四海而無所不
準則奚必華貴而夷賤哉然必推中國

而華之以貴之者以其三代聖王之所
國而禮樂文章非萬國所能及也而今
斯編所載清國風俗以夏變于夷者十
居二三則似不足以貴重然三代聖王
之流風餘澤延及於漢唐宋明者亦未
可謂蕩然掃地也又清高之未墮浦者
多係三吳之人則其所說亦多係三吳
之風俗乃六朝以來故家遺俗確守不

變者就斯編亦可以見其彷彿也我
東方古昔盛時聘唐之舶留學之員傳
乎彼而存乎此者乃皆三代聖王之禮
樂則今日民間通行禮俗有不與彼變
于夷者同也有志于講禮正俗者以此
相質而折其衷則中君之此舉未必無
補於世教也豈可以餘閑笑玩視之哉
頃剖劄氏請而公諸世君俾予題其首

寬政己未秋九月
雪堂黑澤惟直撰



岡田顯忠書

清俗紀聞序

中川使君之奉職于長崎也
而政視事勤且勞矣
偶有暇日則差舌人繪工數名就
清客於館咨詢其民間動作禮節名物
象數隨而記之又隨而圖之一周歲而數十
百反使君手親選擇取舍叙次編之
今十有三部合成一書
初清客之受問私舌人曰
臣等小人生長閩浙其所能誦特閩浙

之俗耳名物象數亦唯閩浙矣若夫清之
廣莫方不同倍倍不同物惡能其他之及
哉北京盛京之間民俗名物多為滿也純
矣西南方或大滿而小漢矣其小滿而大漢
亦以觀唐宋遺風者獨有閩浙而已然
則明府今日之求不必他及邪臣等亦不
能他及也蓋使天有邪喪也其意有二
二西陲之政回易莫重焉清之客猶我之

民矣非審其風俗明其好惡察其情偽
不可得而治也斯書而成後之奉職者長官
小吏咸將知所嚮焉一也誦法取賢究博
致遠細大弗遺者民俗名物固不可以不參
諸後世而卓野瑣屑固有詳載不與廢事
身利書而成後之學者其或摭什一於千百
焉二也夫情客通于我乃止不一而閩浙之
民實什之九則吏者之用閩浙而足矣民俗

石物不_レ存_レ於_レ經傳_レ意_レ要_レ在_レ於_レ唐宋_レ則_レ書
生_レ之_レ需_レ而_レ風_レ漸_レ而_レ足_レ矣_レ純_レ滿_レ大_レ滿_レ我_レ於_レ何
有_レ夫_レ如_レ斯_レ使_レ君_レ今_レ日_レ之_レ求_レ果_レ不_レ他_レ及_レ也_レ客_レ之
不_レ能_レ他_レ及_レ也_レ笑_レ傷

寬政戊午七月朔_レ蕉園_レ霞士_レ津國_レ中井
曾_レ弘_レ序_レ于_レ江_レ都_レ錦_レ林_レ客_レ舍



附言

○此書_レの_レ靖陽_レ來_レ系_レ清_レ人_レ其_レ國_レ民_レ間_レの_レ風_レ俗_レを_レ尋_レ問_レ一_レ此_レ邦_レを
語_レみ_レ直_レ一_レて_レ記_レを_レ處_レあ_レる_レ素_レより_レ清_レ國_レ東_レ西_レを_レ異_レみ_レ一_レ南_レ北_レ俗
を_レ殊_レす_レ其_レ此_レ編_レを_レも_レて_レ普_レく_レ清_レ國_レの_レ風_レ俗_レと_レ思_レひ_レ得_レる_レ事_レが
これ_レ今_レ靖陽_レ來_レ系_レ清_レ人_レ多_レく_レ江_レ南_レ浙_レ江_レの_レ人_レを_レれ_レ新_レに_レ記_レし
て_レ處_レを_レ多_レく_レ江_レ南_レ浙_レ江_レ乃_レ風_レ俗_レと_レ知_レる_レ一

○圖_レ繪_レを_レ靖陽_レの_レ畫_レ師_レを_レ清_レ人_レの_レ旅_レ館_レに_レ遣_レし_レ聞_レみ_レ隨_レひ_レて_レ圖_レを_レ新_レ
遠_レ事_レを_レ其_レ清_レ人_レの_レ言_レを_レ正_レし_レ或_レを_レ清_レ人_レ圖_レして_レ示_レす_レもの
も_レ多_レく_レ同_レ答_レを_レ得_レて_レ始_レて_レ多_レ全_レき_レ事_レ成_レり_レ見_レる_レ者_レも_レ
か_レし_レを_レ生_レず_レる_レ事_レあり_レれ
○片_レ假_レ名_レを_レ好_レむ_レ右_レ附_レる_レもの_レ唐_レ音_レ形_レり_レ手_レ假_レ名_レ成_レり_レ右_レに

附言

附る者ハ續考及ハ和訓也方ハ附る者ハ和訓の仮名之但和訓亦ク
多右ノ唐音也者ハ方ハ和訓也又ハ和訓を附る者ハ和訓
の仮名原通事也此ハ長壽語多ク同脱する者ハ和訓
也方ハ是を補ふ也此ハ一事ヲ和訓の語同クシテ不あり見ふ
所ハ

○吉凶喪祭年中行事ハ類時陽在留の清人時々行ふ是其畧
を以て見ふに是より器械玩弄の類も又嘗て此邦へ來船する物親ク

見ふ不圖中事に之を斯く以て其餘編あはれ事成推て知金一

○答問僅ハ一年の間よして志々も公勢ハハ後ハハわづがれば遺

漏るふの多ク此後壽陽ハ或る人是を補ふ事ハ予が
望見ふとふ也

清俗紀聞總目

○禮帙

卷之一

年中行事

○樂帙

卷之二

居家

○射帙

卷之三

冠服

卷之四

飲食

卷之五

聞學

○御帙

卷之六 生誕
卷之七 冠禮
卷之八 婚禮

○書帙

卷之九 賓客
卷之十 羈旅
卷之十一 喪禮

○數帙

卷之十二 祭禮
卷之十三 僧徒

清俗紀聞總目終

清俗紀聞卷之一

年中行事

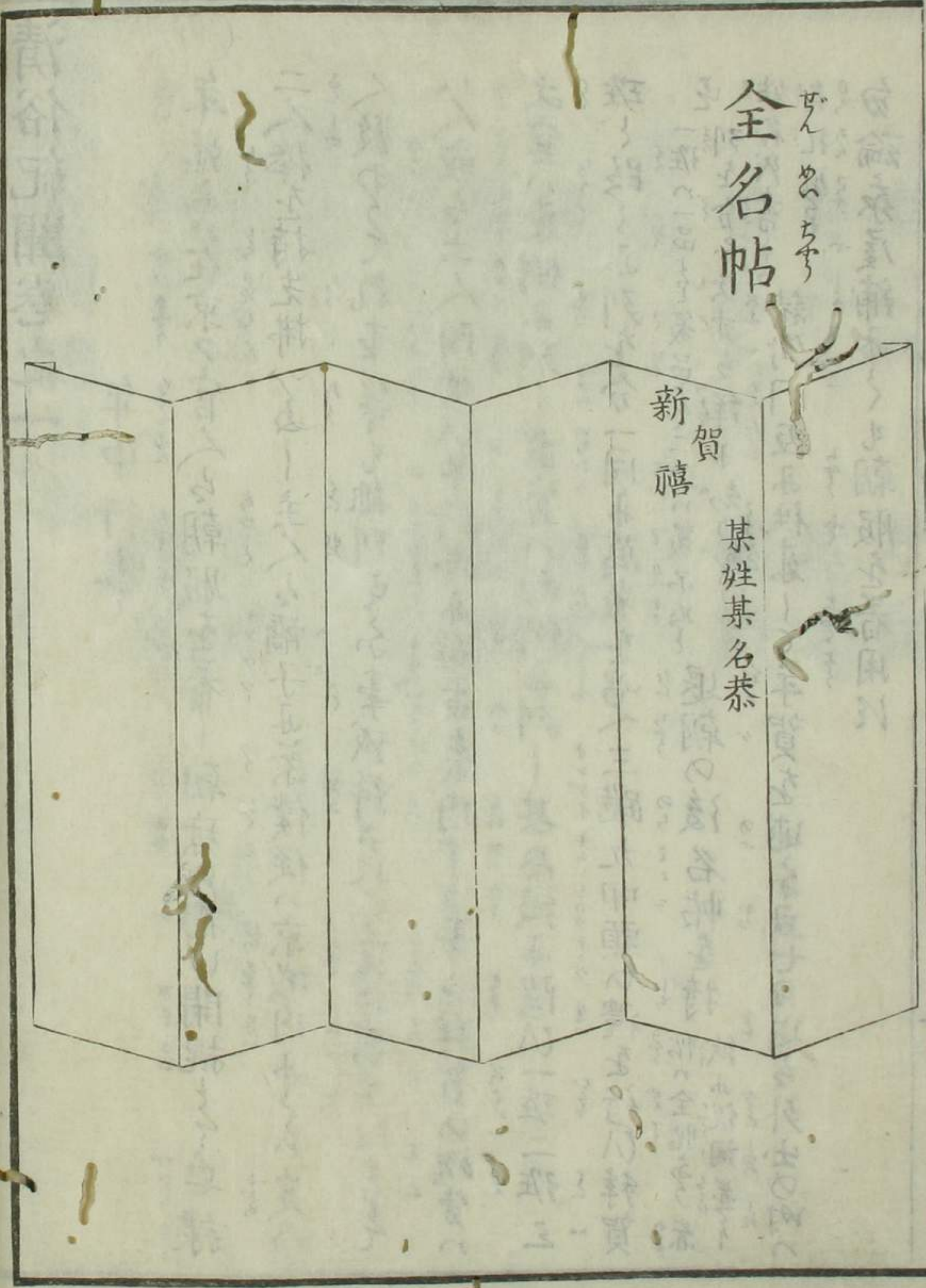
○年始初ハ在京の官人ハ朝服を着カキ朝珠チウシュヲ掛カケ開棍カイクントク皂隸ソウリキ二人捧ウラ持ツ先掛サキカケトク主人ウヂノリハ轎子カヤウマトシシ茶チヤ僕ボク従ツハ京城内キョウジョウノウチニ定サダメ乃ノ人數ヒトカズありて執事シツジ等トも排ハ列レトシシ事コト成ナ許ヨされル官ツカのタテ下カにヨリテハ人ヒト或シラハ六人ムツヒト附ツ從ツハ午門ヌノカド外ソトニシ苗ヒナ並ナ糸イト内ウチニシ事コト也ナリ拜イハ賀カのツ次ツギ分ワケハ文官モンカウハ東側トウソクニシ列レ武官ブカウハ西側セイソクニシ列レ其ソノ品シヨウ級キョウニシ隨ツハ一班イツパンニシ班パン三サン班パントシ路ヂトシ列レをシ分ワケ一イツ同ドウニシ萬マン歳サイをシ唱ナゲ三サン跪クヰ九ク叩ク頭トウのツ禮レイをシ行ユクハ拜イハ賀カ也ナリ一イツ班パンハ一品イツヒントシシ家ケ品シヨウトシシ二班ニパンハ數カズ不フ返ヘントシシ列レをシ分ワケ次ツギニシ列レトシシ詳シヤウトシシ各オノオノ氏ウヂ書シヤクトシシ請コト新ニウ門カド互オノオノ互オノオノ往ユク來クトシシ年トシ賀カをシ述ツスル且ナ七シチ日ニチ返ヘンラシ外ソト出デのツ時トキハ勿ナ論ロ赤セキ屋ヤ鋪ポ也ナリ朝チウ服フクをシ着カキ用ヨウ也ナリ

年中行事

全名帖

新賀

某姓某名恭



○

京外の官人元朝の朝服を着し、閏棍の皂隸行牌涼傘旗等

先み備(跟随の者)多人數召連其所の寺廟み安置あふ今上皇帝

の龍牌み詣り拜賀以龍牌とははげ撫座殿天子萬歳萬歳と書哉有て

を品級みよるを行列等此差別をあふやまも寺廟とは併前み安置以外殿等此捧い

を任持役僧成連門前近迎送は又人みよる役僧のを挨拶すも

ありまよる知府知縣等の官人名帖成持帖は全帖前み同上司官取(掲)

年賀成述ふすは七日まの朝服を着用也

○

官人庶人とも元朝の先衣服を改め天地を拜し庶人とも天地を拜す

次み家廟の神主成拜し兩親を拜し召使の奴僕ハ

新長成着し新長成とははげ撫座殿天子萬歳萬歳と書哉有て

香花燈燭年糕菓子羹飯酒並み橘子菱子竜眼肉の類を燒物

年中行夏

の餅四猪口等も盛く供へ
年糕の製法は、靴底手糕を
 制するに注みあり、 禮拜終ると喜神の
 方みむらひ外志喜神の恵方
 と之をいふ 神廟併院も末詣は香燭の寺廟もえ
 備へあまも携へる事あり惣して寺廟もえ多く水盥を設けら故
 家内もと平儀浄め糸糸水入用の附と寺中へ用ゑたる三日迄の内、
 親類朋友等の方へ名帖或持行帖を草帖あり赤紙も祝詞
 並み姓各成書たる名札あり 朋友肉と門口
 みく祝詞を述親類又の親へ此方みく酒年糕等を出し福玉地
 みる屠蘇酒を割衣江南浙江辺みくは後て用ゑる者
 あり故其製法あり 家内みくも用ひし
 茶客もえ出を事あふり且大戸の向ら跟随二人或ハ三人召連遠路
 ぶきの轎子馬戎因ハ十五日迄の内、羊禮を述茶客の内空腹の者へ
 暖鍋とく此方の鍋料理中み仕えく外み小菜八持りしけ至食せ
 志む丸品物左の通り

○ 暖鍋 緑豆 鶏 鴨 肉圓 香菰
トニ スエシ ホー トイ エン ダン ヒヤアミ エン ロー フ
 冬筍 火腿 海參 魚翅 蝦禾 鹽蘿蔔
ホー トイ エン ダン ヒヤアミ エン ロー フ
 魚 火腿 鹽蛋 蝦禾 鹽蘿蔔
ホー トイ エン ダン ヒヤアミ エン ロー フ
 炒骨 青菜 紅棗
ツラウコ ツイン コー ホン ツアク
 右の品暖鍋の内みく煮えくあふかふ成賞散
 右暖鍋小菜料理の品定式ありあふ有合かあふ増減す此の
 外年始とて此方の雜煮吸物中あふ式あり

羊中行夏

三

單名帖

新

賀

禧

某姓某名恭

封筒

露申

請帖

封筒

露申

翌午寅治春暮奉迎

高軒祇聆

大教伏惟

早賜惠臨勿卻幸孔

右啓

大德望某號某姓老大人臺下

侍教生某頓首拜

招 牌

松茂號定織紬緞發販

羊中行夏

五

元旦トシガタから試毫シマウとく吉利キリの文句ウチゴトを赤紙アカシに書カけ元朝ゲンチャウ鮫サマ用ヨウする者モノの便宜ベニヤの多オホクを除ノゾクてみあつてむかふ物を惣サマして元旦ゲンイチの吃素キツソの者モノ多オホク一年イツネンの始ハジメを深く慎ツツシむ事コトあり三日サンニチ比ヒより春酒ハルサケ或ナラバは新年シンネン禧酒シキウを唱ウタへ親類ウチノカミ朋友トモ互互ニ招請サウキョウして酒宴サケウチを儲タマく

○商家セウカと元朝ゲンチャウとを招牌カネウチを初ハジメに内店ウチノミヤめく商賣セウバ一曆イツリキの開市カイシとてふ日ヒは招牌カネウチを掛カふ此日ココノヒ店開テンカイの祝イハヒひとて手代テダテその不フ商賣セウバ仲間カミナリ代ダテは酒宴サケウチ代ダテ後ノチに船フネ系ケイの出行イッパツとてふ日ヒは兼ツク初ハジメの形カタチに店却テンケツを盤帳ハンチヤウと唱ウタへ開市カイシの前マエ後ノチみかるとて手透テスを見ミあつて前マエ年の商賣セウバ銀高ギンタカありび品物モノ有ア高等帳コトウチヤウ合勘カウカン定テイ也

○商家セウカと元朝ゲンチャウとを招牌カネウチを初ハジメに内店ウチノミヤめく商賣セウバ一曆イツリキの開市カイシとてふ日ヒは招牌カネウチを掛カふ此日ココノヒ店開テンカイの祝イハヒひとて手代テダテその不フ商賣セウバ仲間カミナリ代ダテは酒宴サケウチ代ダテ後ノチに船フネ系ケイの出行イッパツとてふ日ヒは兼ツク初ハジメの形カタチに店却テンケツを盤帳ハンチヤウと唱ウタへ開市カイシの前マエ後ノチみかるとて手透テスを見ミあつて前マエ年の商賣セウバ銀高ギンタカありび品物モノ有ア高等帳コトウチヤウ合勘カウカン定テイ也

○商家セウカと元朝ゲンチャウとを招牌カネウチを初ハジメに内店ウチノミヤめく商賣セウバ一曆イツリキの開市カイシとてふ日ヒは招牌カネウチを掛カふ此日ココノヒ店開テンカイの祝イハヒひとて手代テダテその不フ商賣セウバ仲間カミナリ代ダテは酒宴サケウチ代ダテ後ノチに船フネ系ケイの出行イッパツとてふ日ヒは兼ツク初ハジメの形カタチに店却テンケツを盤帳ハンチヤウと唱ウタへ開市カイシの前マエ後ノチみかるとて手透テスを見ミあつて前マエ年の商賣セウバ銀高ギンタカありび品物モノ有ア高等帳コトウチヤウ合勘カウカン定テイ也

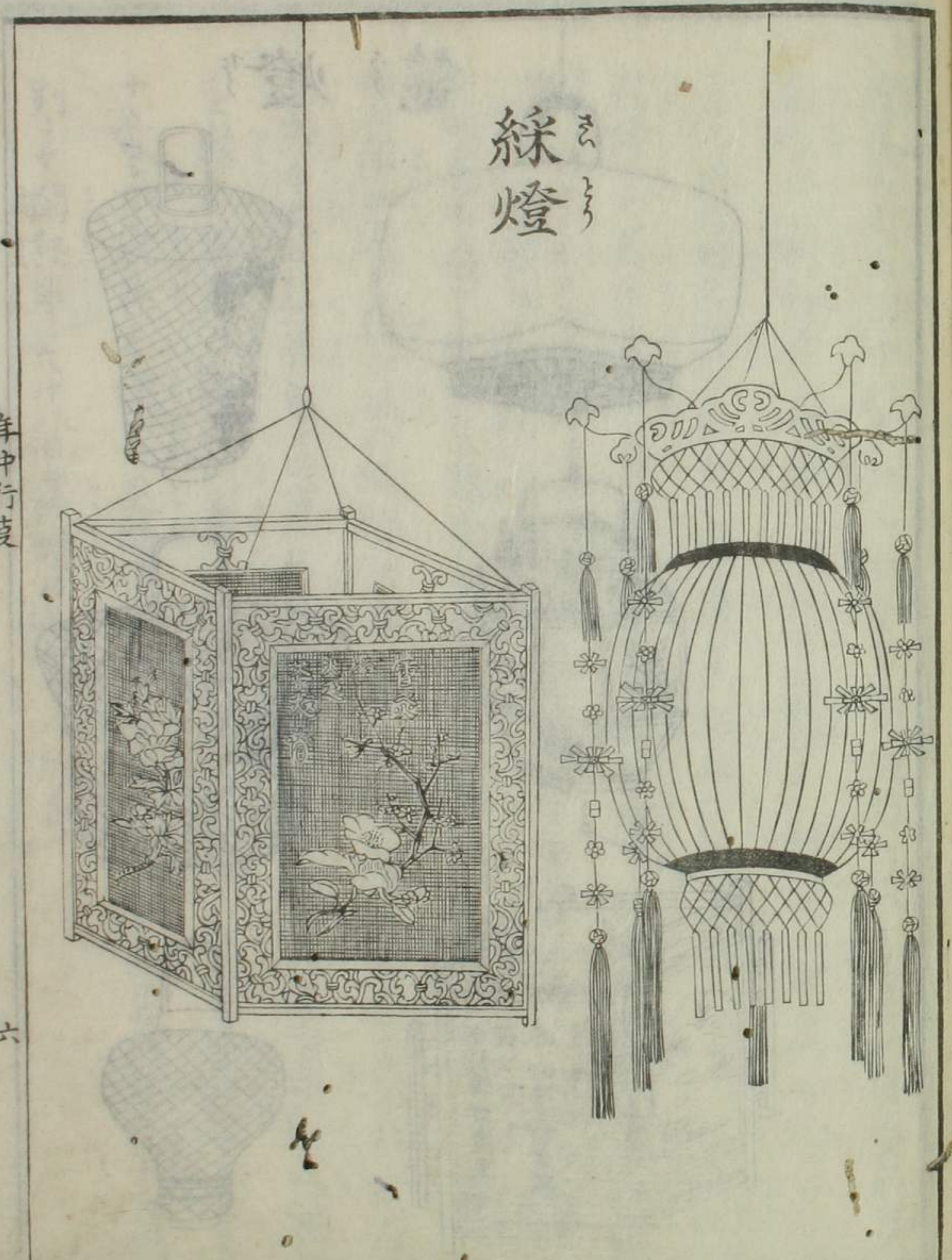
○商家セウカと元朝ゲンチャウとを招牌カネウチを初ハジメに内店ウチノミヤめく商賣セウバ一曆イツリキの開市カイシとてふ日ヒは招牌カネウチを掛カふ此日ココノヒ店開テンカイの祝イハヒひとて手代テダテその不フ商賣セウバ仲間カミナリ代ダテは酒宴サケウチ代ダテ後ノチに船フネ系ケイの出行イッパツとてふ日ヒは兼ツク初ハジメの形カタチに店却テンケツを盤帳ハンチヤウと唱ウタへ開市カイシの前マエ後ノチみかるとて手透テスを見ミあつて前マエ年の商賣セウバ銀高ギンタカありび品物モノ有ア高等帳コトウチヤウ合勘カウカン定テイ也

○商家セウカと元朝ゲンチャウとを招牌カネウチを初ハジメに内店ウチノミヤめく商賣セウバ一曆イツリキの開市カイシとてふ日ヒは招牌カネウチを掛カふ此日ココノヒ店開テンカイの祝イハヒひとて手代テダテその不フ商賣セウバ仲間カミナリ代ダテは酒宴サケウチ代ダテ後ノチに船フネ系ケイの出行イッパツとてふ日ヒは兼ツク初ハジメの形カタチに店却テンケツを盤帳ハンチヤウと唱ウタへ開市カイシの前マエ後ノチみかるとて手透テスを見ミあつて前マエ年の商賣セウバ銀高ギンタカありび品物モノ有ア高等帳コトウチヤウ合勘カウカン定テイ也

○商家セウカと元朝ゲンチャウとを招牌カネウチを初ハジメに内店ウチノミヤめく商賣セウバ一曆イツリキの開市カイシとてふ日ヒは招牌カネウチを掛カふ此日ココノヒ店開テンカイの祝イハヒひとて手代テダテその不フ商賣セウバ仲間カミナリ代ダテは酒宴サケウチ代ダテ後ノチに船フネ系ケイの出行イッパツとてふ日ヒは兼ツク初ハジメの形カタチに店却テンケツを盤帳ハンチヤウと唱ウタへ開市カイシの前マエ後ノチみかるとて手透テスを見ミあつて前マエ年の商賣セウバ銀高ギンタカありび品物モノ有ア高等帳コトウチヤウ合勘カウカン定テイ也

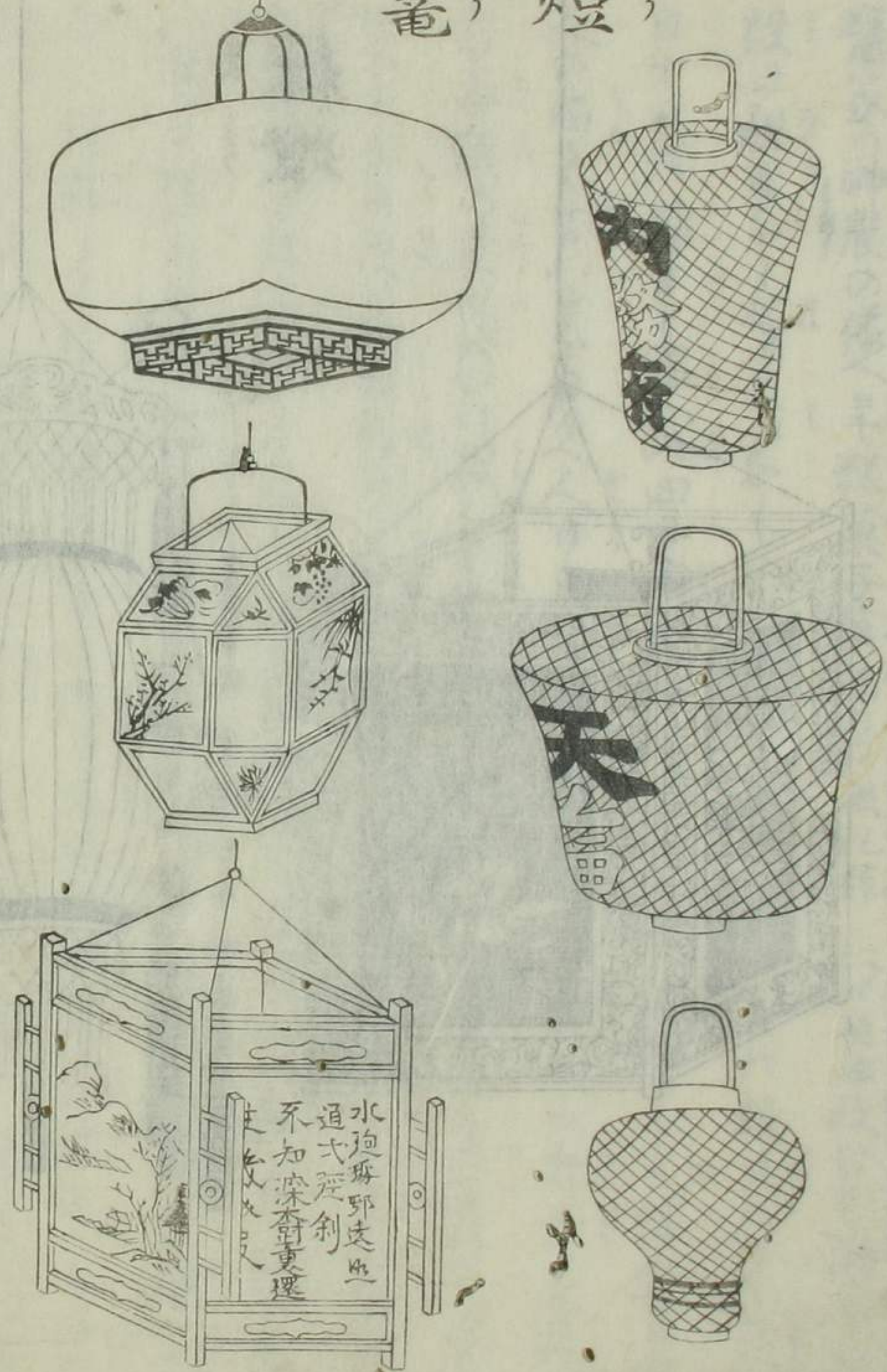
○商家セウカと元朝ゲンチャウとを招牌カネウチを初ハジメに内店ウチノミヤめく商賣セウバ一曆イツリキの開市カイシとてふ日ヒは招牌カネウチを掛カふ此日ココノヒ店開テンカイの祝イハヒひとて手代テダテその不フ商賣セウバ仲間カミナリ代ダテは酒宴サケウチ代ダテ後ノチに船フネ系ケイの出行イッパツとてふ日ヒは兼ツク初ハジメの形カタチに店却テンケツを盤帳ハンチヤウと唱ウタへ開市カイシの前マエ後ノチみかるとて手透テスを見ミあつて前マエ年の商賣セウバ銀高ギンタカありび品物モノ有ア高等帳コトウチヤウ合勘カウカン定テイ也

醫家の神農の像 年糕菓子菓物 供祀拜 六日迄亦收む酒宴成
 設け親友あど極々茶一 ○正月七日を人日 八日戌穀日九日を豆
 日十日戌綿日と唱へ此四日天と氣和晴あるは豊年ありと云傳ふ七日ハ
 人の始とせられふ日也人日と唱ふ 故に浙江の人の竹量をもつ
 多身體の量目成かけ裁不足を秤人多く江南をみくは立夏の日か
 かなより夏之瘦せむふ為ありやつひ傳ふ ○正月十三日戌上燈十五日を
 元宵十八日戌落燈とふ此六日の間戌燈夜と唱へ十二日夜より家々の
 門前か燈籠を燃へ官府富家の向う門前の勿論堂上は六樓上
 へて結綵とく紅縮綿を四方か張る兩端を柱或は上檻等より垂
 下りて花の形ある形か結びさげ種々此饒燈籠を燃へ
 玉羊角等や酒宴を設け家々より系竹等催す事あり



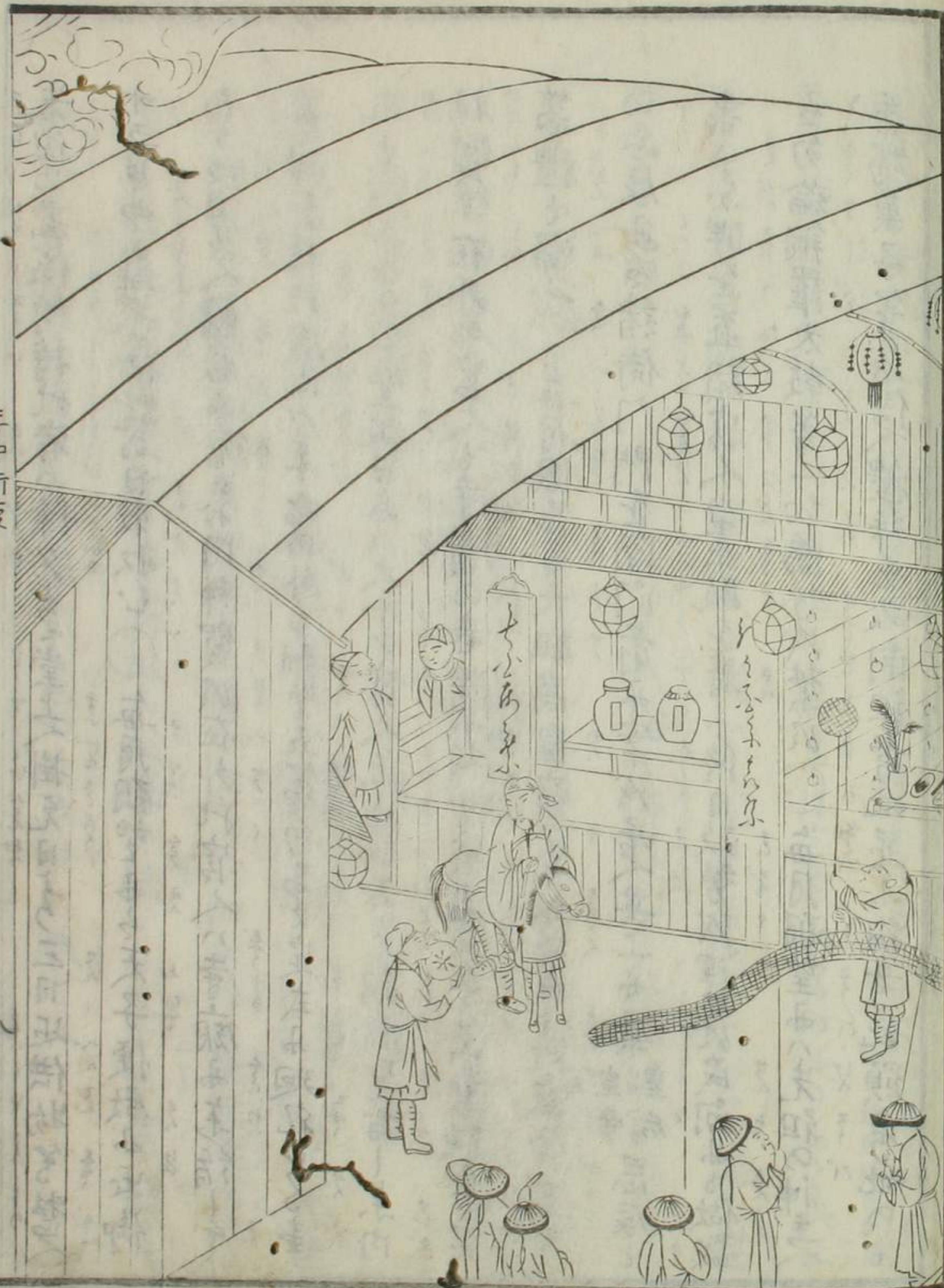
糸
 燈

籠燈



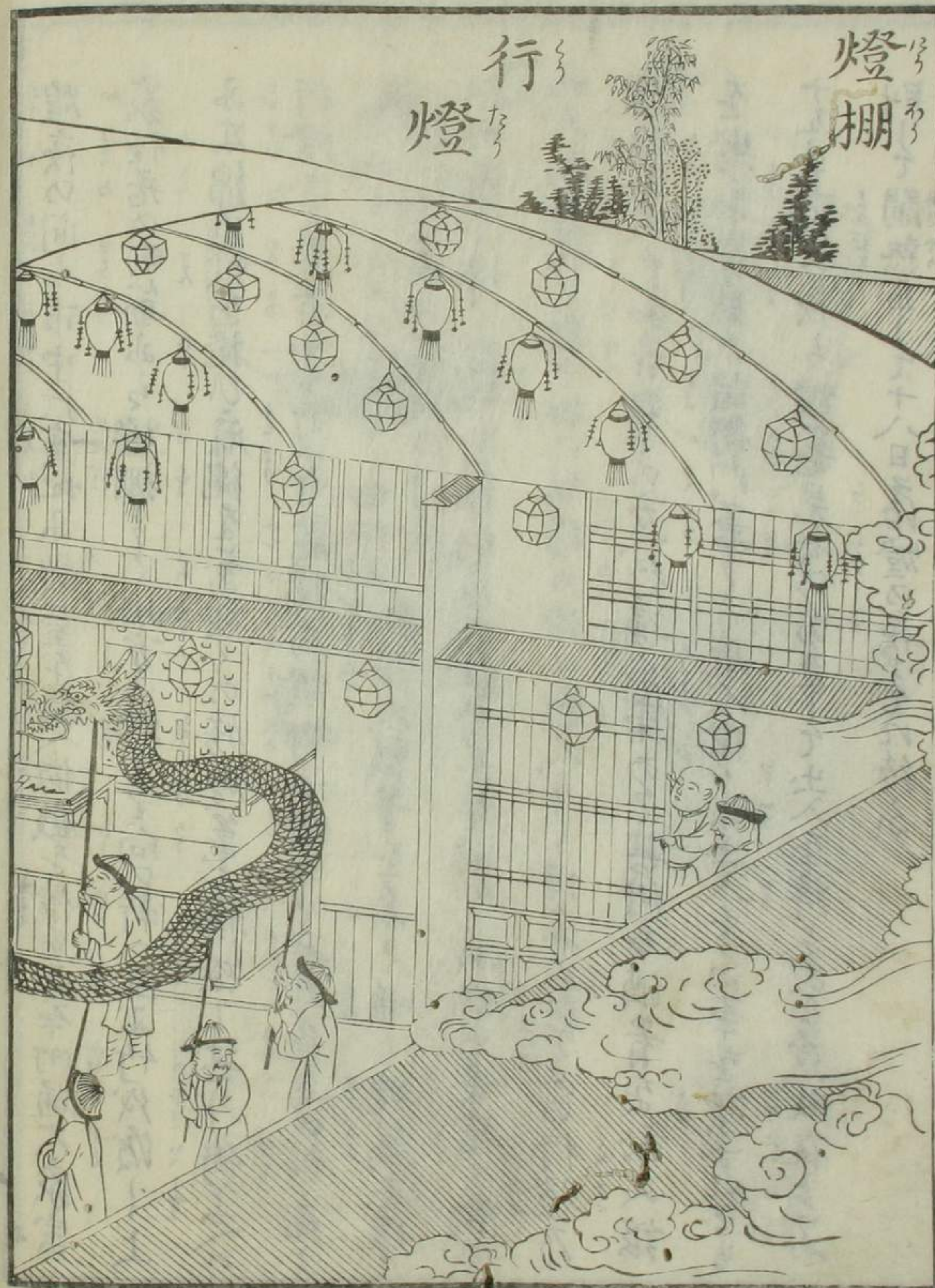
○燈夜の間に市中に空地を遊戯を催し又本町通大家富
 家住居の町筋から燈棚とて此方の軒より向の軒へ互に竹皮液の上
 にお綿の幔を掩ひ麻縄を畜種々の傍燈籠を掛懸し其外街の上へ
 行燈とて若者ども打寄龍燈馬燈獅子燈など其外魚鳥の形色々
 梅竹の形紙の蠟燭を張彩色銅羅太鼓等をのり唯一燈籠を
 ひ町筋を踊り歩くを趣向ある装束等同かく就中竜燈の長さ
 四五間お造り數十挺の蠟燭火燈一數人おくはふ右數多の行燈乃
 肉或は六戸知音の方へ行踊ふ事あり其附に酒肴を勸又銀
 を賜ふ事あり諸衙門兼くハ庶人揚りお出入を事おすれども
 十五日上元の夜は燈籠見物の多きとて出入を許さず夜放夜と
 別して開熱あつて十八日落燈の夜をこれ終ふ

年中行夏



行燈

燈棚



先祖の畫像所持此者の除夕堂上掛元日より二日近供物等懸之
十五日也供之落燈の日取收む ○ 毎月朔望日天子便殿出御
あり清官人朝服も糸内拜賀以外此官人の寺廟も糸内
竜牌を拜以庶人の年始の外朝服を五節向ふて定式も廻り
ふ ○ 皇帝聖誕日大小の官人年始のち朝服を着し糸内
拜賀す在外の官人も寺廟の竜牌も拜賀以元日冬至至聖誕を二天
節禮と唱ふ ○ 毎月國忌大祖高皇帝を以て後代に此皇帝皇后
の忌辰も諸衙門門を閉門前も安んず其上司某皇帝忌辰と
書し糸内を道諸官人の素服を着し終日政務不理せし民間も做戲
る勿論銅羅太鼓等一切鳴物禁み ○ 毎月朔望日先祖の神主
香燭菓子等供之禮拜之又開祖考妣並小祖考妣頭考妣の生

誕日も廳堂中其人の畫像を掛香燭三牲等供之祭ふ
正月十五日天官の誕日七月十五日地官の誕日十月十五日水官の誕日也此二
尊を三官菩薩と稱し誕日も諸人寺院も糸内を天官の福を賜
ひ此官の罪伐赦し水官の火災伐除く佛放別して信仰のもの多く
家内も供物をし祭ふ者あり ○ 毎月二十日代近福也
五路財神を祭ふ 趙玄壇を奉る 招財招寶 家毎も三牲香燭供之
或も神廟糸内を錢財を司ふ神也清商人重んじ祭ふ
正月二月三月の間小児も紙鳶を揚ふ 紙鳶一名鷓子人形胡蝶或ハ風箏
とて竹を弓形曲輪子紗綾等の幅二三歩程の切を弦も掛紙鳶の羽
造者揚放て風受變響成る故も風箏と號く又児女も見踢を
鷓子二奉又五奉錢も挿指めく包も足蹴り戯る
年中行交

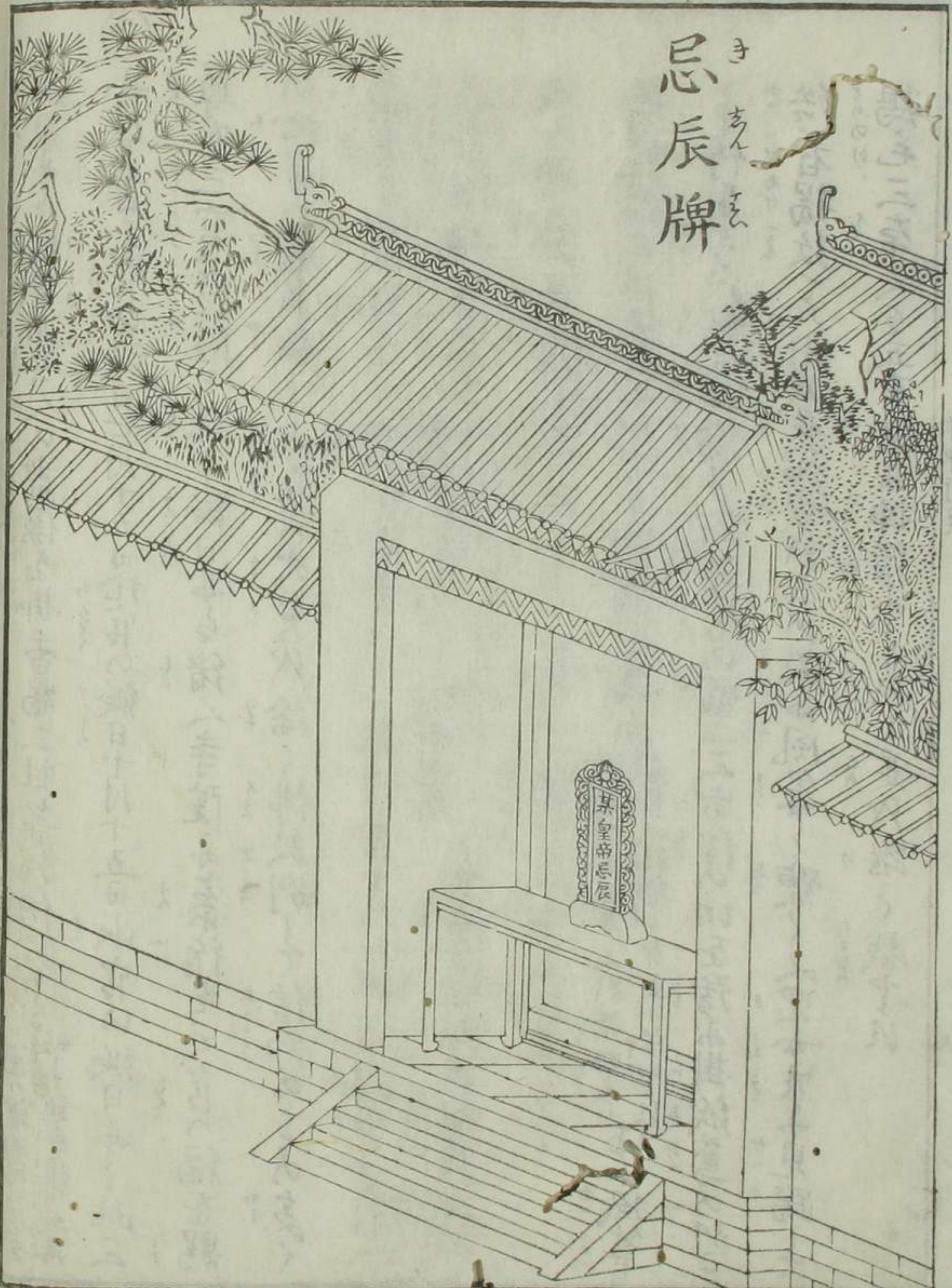
年中行交

年中行夏



+

忌辰牌



三月二日土地神の誕日みち家々香燭供物をし又神廟み糸詣をする者
もすり廟前みち家々戲臺成さるし之做戲あり
○二月上旬の丁日諸州府縣の聖廟み官所より釋菜の法ありはちりわ
庶人々糸詣成終る
○二月十二日百花生日成花朝と唱へ習志と
み安置あふ花神廟 花神ハ都合十三體あり正月の花神ハ手に梅花を持三月ハ杏
秋海棠八月ハ桂花九月ハ菊花十月ハ芙蓉十一月ハ山茶花十二月ハ何具も糸紀あり
臘梅閏月の牡丹花を持ふ神像成安置は係らほま初らかあし
諸人糸詣をすは花園あふ初に庭上み卓成菓菓子並み時候の菓物香
燭成供死神をみ常々衣服裁餘の小切を貯へ置何色も拍り寸此日園
中の樹木み結び付ふ花ハ花簾しく張實成むす為ありとい傳ふ
○二月十九日觀音菩薩の誕日みち諸人別々信仰の佛也香燭成す
法云寺院み糸詣をふるものなり

三官菩薩



年中行支

十一

箏うり
琴ま



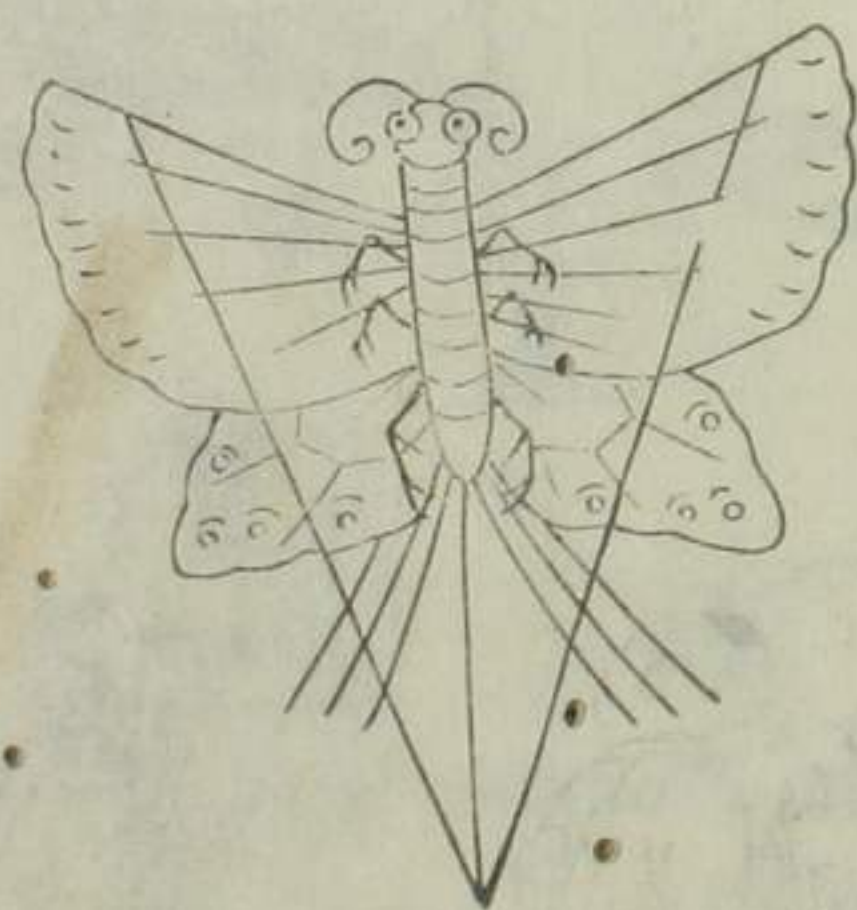
鳶とび紙かみ



年中行夏

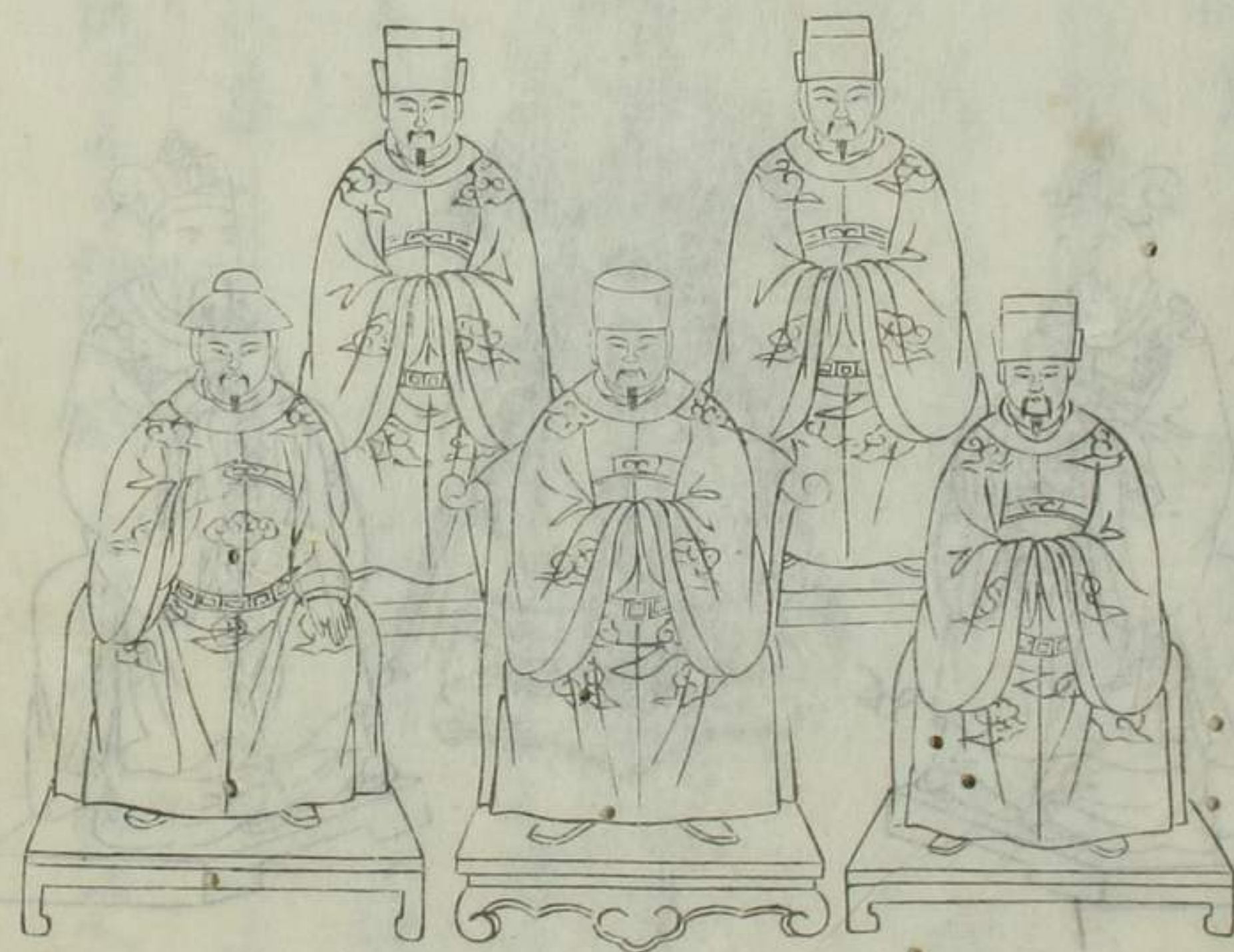


踢うり見ま



十三

神かみ財かみ路かみ五かみ





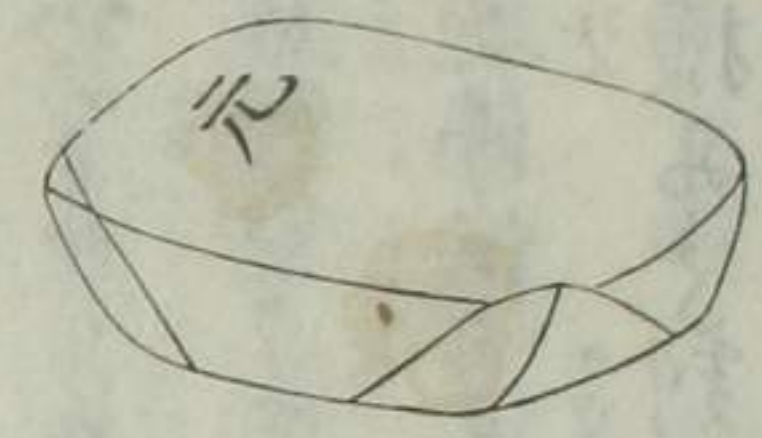
○上巳の日家々菜薺花を門戸の左右其外灶上床上等一挿置蟻成製
 せしむ傳ふ ○三月清明の日家々柳枝を門戸挿諸蟲生せしむ
 為ありとひはふ ○三月清明の節み掃墓少々一名掃貴賤及同姓
 の一族先祖の墓一之り三牲並み菓子菓物等成器に盛卓上供
 香燭燭燭酒を流奠一眞衣大金を燒 眞衣の衣板を畫きたる紙大金ハ
 手向の意あり 禮拜畢了供物等成近道の野原み推門行祠堂ある者ハ祠堂
 み打宴を催及又抗州西の西湖み船成遊もあり官人とも朝服の着
 せし轎子馬等と諸人とも随意み用也跟随の多少ハ貴賤み宗等か
 一家老少一同み成り内婦女の多く急ぐは他家み嫁したる年の極て其
 家の墓一之り成り清明年とていふ事ハ京師とも同俗之儒生
 とも異ふ事ハ家廟も供物等あり祭式年始れむや

○清明の内藩州縣其勅命を奉ま其北の城隍廟の神像を轎子
 清一 住古より知府知縣其外の官人厚使ある人後み至りて勅命ありて廟を建て安置一其
 儀の守神とて是を城隍廟と名付誓ハ何れの代の何官と云傳所同か
 品級も階級も且城隍の向あり又城隍廟少かば 先み銅羅を打鳴一次み行
 牌二對 行脚ハ長き二尺五寸程幅一尺七寸程の塗板み二尺程の柄をばけ板み 旗數奉涼傘
 奉旨祭祀 勅命一対次由城隍使司と彫る成一対何事も金字あり 轎子の跡みハ鼓樂成奏して
 一奉鸞駕數を成立列絲 鸞駕ハ錦も鎗錦も 轎子の跡みハ鼓樂成奏して
 諸役人郊外の墳墓ある所み送る行祀孤の爲み兼く構ある廟壇は
 精一 廟壇ある所ハ草葺の假屋 椅子を置儀成居前み三牲供物等を卓
 上み並其所の子孫吊ふ者み三之儀の亡靈を奉る是を祀孤と云奉官み
 らびみ諸官吏等禮拜身も後諸人奉詣以知府知縣と生民を司る
 故み陽官と城隍と亡靈成司み故み陰官と唱ふ府ありハ知府縣み
 是ハ知縣の格式あり行列也

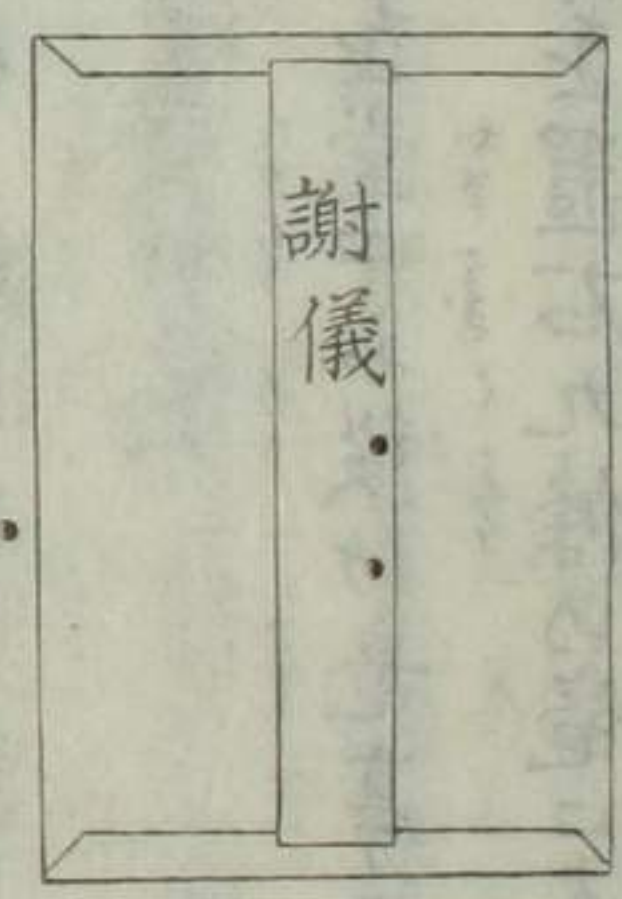
○二月十五日趙玄壇の誕日ありて家々供物等近福の財を同じて神廟を築結
むる者もあり玄壇の殿の總兵官を勤むる人ありて初年の時深山に入りて
術を學び種々此奇特あり故諸人は尊敬以後周の武王紂王を伐つて
凶せり先後おまじ上上天其徳を感し神を封じて後財を司る事あり故お
諸商人專信仰也 ○三月廿三日の天后聖母誕日の祭あり又二月八月
春秋の祭り上の祭日成用也此二祀の廟おまじ做敷ありて諸人素詣
多しを船神也走洋の人と都々信仰し家内の廳堂或は外の間
みくも清浄なる所おまじ神像を安置し香燭菓子菓物等を種々
供へ祭らる ○立夏前後帽子替の節は前廣お朝廷より幾
月幾日換戴暖帽と云ふ宣言諸州縣へ降し右の宣言を板し書
各衙門の門上へ掛ふ諸人は是を見く其日おまじ至る涼帽お換ふ暖帽へ

九月寒露の節は前廣お同格お宣言ありて衣服を氣候の寒暖お隨ひ勝
手次おみ着用せよと云ふ宣言降ふ事ありて靴子の四季ともて用也
立夏端午中秋冬至歲暮此五節おまじ書學の師其外醫師等へ金
銀瑞物を以て謝儀を賜ふおまじ端午中秋歲暮の二節お送ふ者
もあり且書學の師おまじ一節お元糸銀二十目程白紙おまじ包て赤紙の
袋お入り止上お小長紙赤紙を掛其上お代儀又て謝儀と書下お姓名
を記せを圓銀おまじ包の紙お元と書一切銀おまじ星と記し量目
書紙銀の數の記し別お帖等用中お事外へ拜匣お入り止遣て醫師への
謝儀は疾の輕重おまじ家の貧富おまじを齊かく
○四月八日釋迦佛誕日おまじ寺々九條竜亭を堂中お設け竜亭の内お
盆を居白檀おまじ刻るお釋迦の三像を置右九條の竜口より香水を

銀錠
包法



封袋



九條竜亭



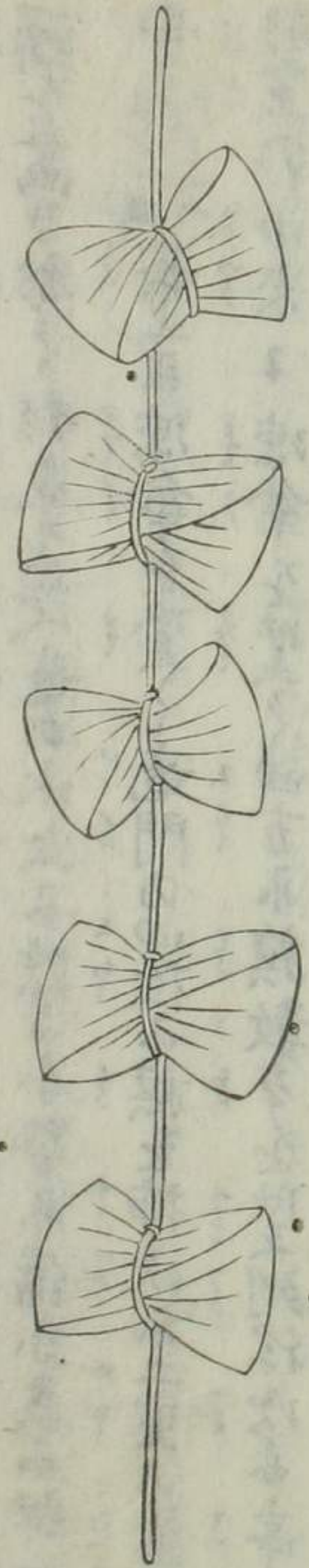
吐出佛躰（注）持ありハハ大衆等蕭笛を吹鈴を鳴し小鼓（注）等
 等を打樂成奏し佛事を行ふ故諸人衆請多しを所みよて浴佛
 等此執行ハハ唯常ハ安置ハハ釋迦佛（注）ハハ此方ハハ
 ○四月十四日呂洞賓の誕日（注）呂純陽先（注）廿八日神農の生日（注）此兩日醫家
 母ら畫像を掛三牲菓子菓物等成供（注）衆親類朋友を招き酒
 宴を設く○五月ハ朔日（注）と五日迄八月と十一日（注）十五日迄十二月ハ
 十五日比（注）と晦日の夜迄此三夜諸州府縣（注）にも掛賣金銀貸借
 等交算（注）右の期（注）至（注）先銀高の書付成遣（注）並遣（注）日限（注）を
 取（注）左（注）右銀高の書付成遣（注）送帳（注）と云清算（注）並ハ書面を消
 商人（注）返（注）○五月五日端午の佳節（注）ハハ家々粽子（注）を煮（注）
 糯米（注）を二反（注）汁（注）浸（注）薑葉（注）成りて三角の（注）又雄黃菖蒲根（注）を細末（注）後宛酒
 中（注）包（注）麻皮（注）成りて（注）入（注）成りて（注）

羊中行支

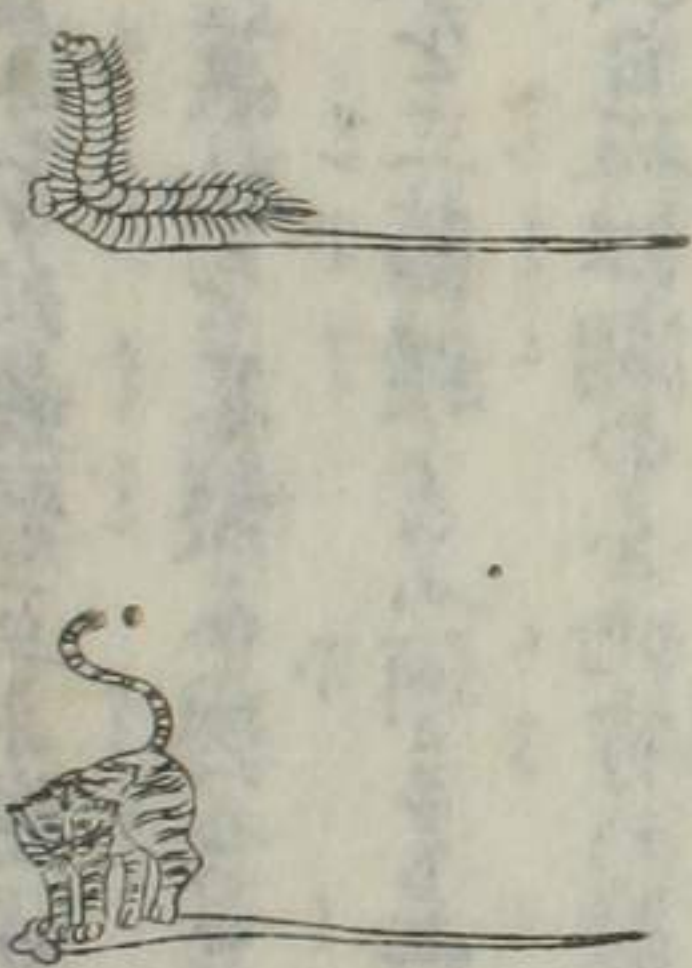
舟入午時ついで舟ふね至いたる足あしを欣おほ幼少おとこの男女おんな舟ふねら大黃だいおう大蒜だいじゆん菖蒲しょうぶ根ねを少すくく
 系けいに貫くわん身み元げん舟ふね投なり又また雄黃ゆうわうの粉こなを酒さけ舟ふね交ま面部まへぶた舟ふね人ひと塗ぬ邪氣じやきを
 避さくおろら口くち舟ふね含くわ堂どうの隅ぐも舟ふね吹ふ掛か不ふ是この毒蟲どくちゆうを禁いずる為ため舟ふね婦人ふにんの
 借か糸いと成なりて人ひと形かたち虎蜈蚣こむぎ蛇へび等の形かたちを小こく替かみ扱あ頭あたま上うへ舟ふね挿さ是こを
 健符けんぷとふ且また堂上どうじやうへ鐘かね馗き關帝くわんてい畫え儀ぎ掛か前まへ舟ふね菖蒲しょうぶ艾葉あゐ葉はを花瓶けいびん舟
 挿さ門かど戸この左ひだり舟ふね右みぎ舟ふね赤紙あか舟ふね根ねを包つつみ挿さ是こを赤糸あか舟ふねに左ひだりの文ぶん舟
 書か一ひと門かど戸こ其その外ほかへも張は糸いと舟ふね邪よこしま氣き成なり拵しやう意い舟
 五月五日午時書
 赤口白舌盡消滅
 菖蒲如劍斬八節妖邪
 艾葉如旗招四時吉慶

五月五日午時書
 赤口白舌盡消滅
 菖蒲如劍斬八節妖邪
 艾葉如旗招四時吉慶

粽子



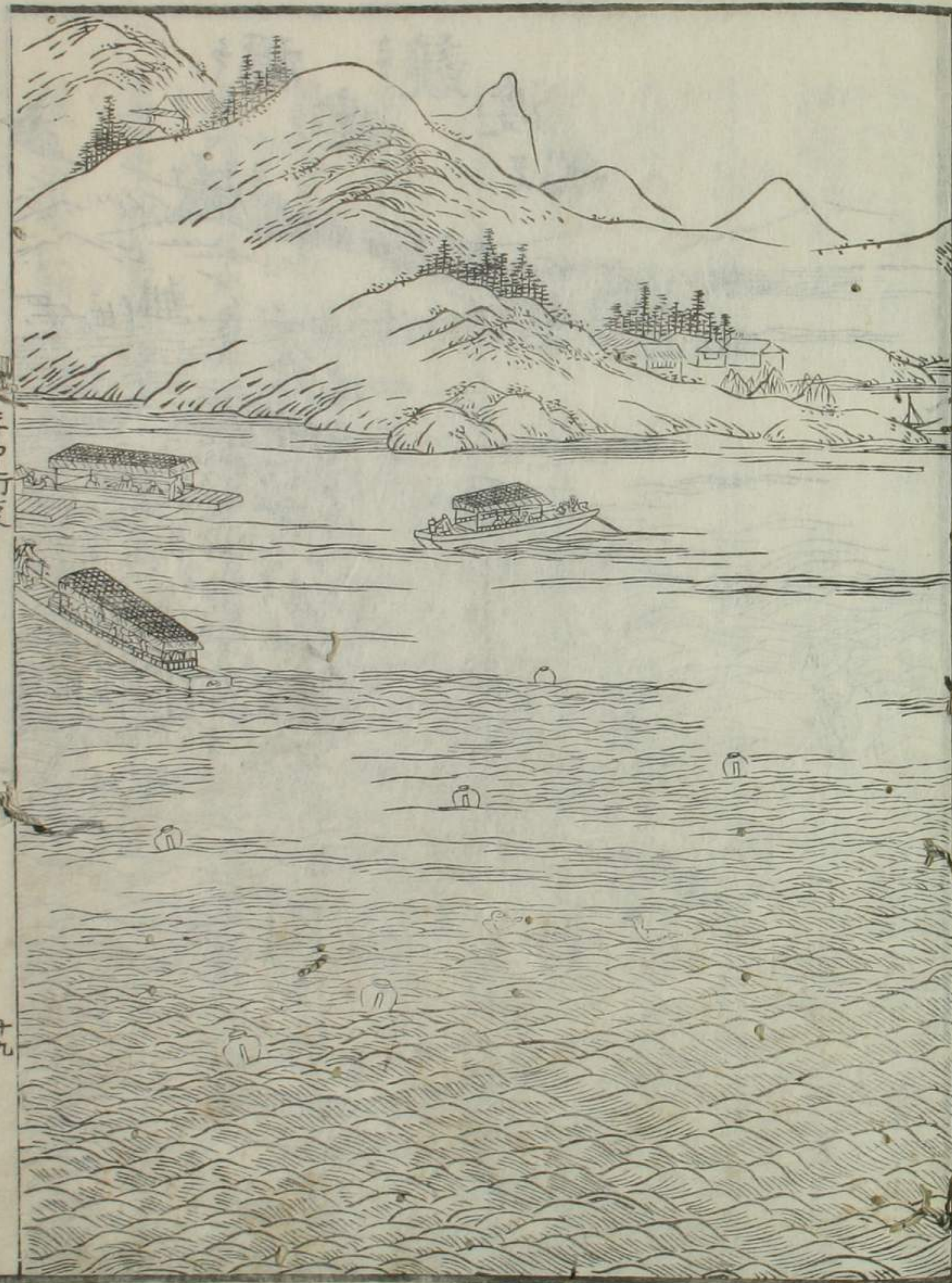
健符



年中行夏

○五月五日山野遊行ノ藥草を採制法して苦更置事也又常也採
 貯ふ者あり ○同日みちの親類互み粽子並び魚類猪肉塩蛋批
 把梅子等時候の菓物を本盤み盛合を送ふ八月十二月とも都合
 三度の贈物あり足を三節禮とふ何れも四種六種送ふ於て半の數を
 用ひ也 ○朔日六日近江湖の地方ハ數艘の竜船を造り競渡也船
 長五二間幅二間程猛み竜頭疆み竜尾を造り船の全持み竜
 鱗を畫き都く彩色を加竜の水上市浮ふ勢み係糸表み牌樓
 あり門と不 其上み涼傘を笠と竜門の四柱み旗を挿次み二重の臺有
 臺上の中央み涼傘を笠と四方み旗數本を笠列杯次み亭或
 備其上み涼傘有亭の兩眼み挿于代構足み旗數本を笠並疆み舟
 大旗一本竜尾の山斜み挿傾 旗涼傘ハ程ハ排鏡鏡子縮綿 色ハ儀を飾る
 等ハ後船泊して美乘を飾る

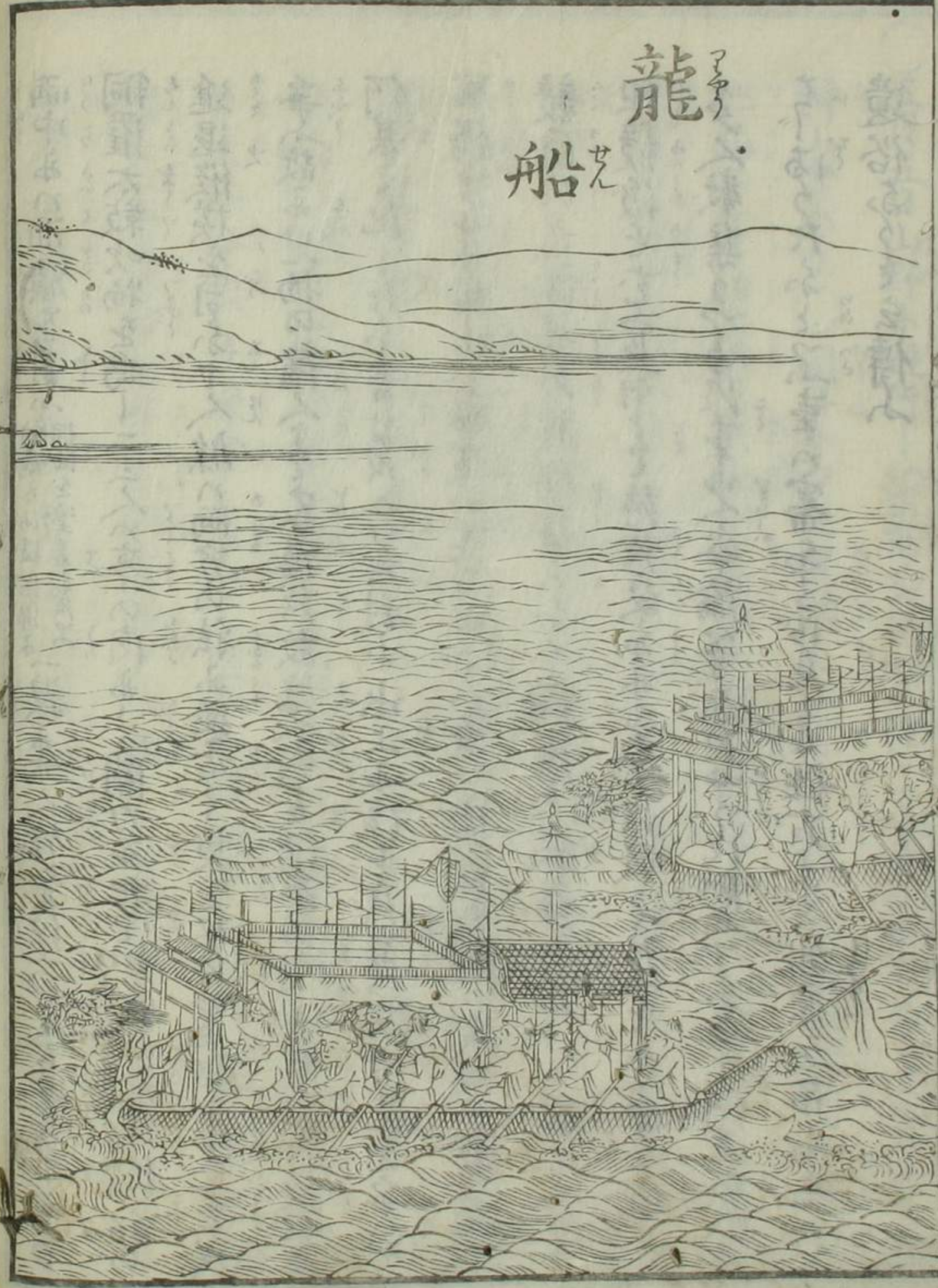
兩中み油旗を用い 油旗ハ後縮綿ハ 桐油を塗る也
 銅羅太鼓吹物を鳴し二三人の亭の内み關刀を把り 板中ハ把を青龍の形ハ 船の
 進退縱横を司ふ十人餘ハ兩方の舷み並若く槳を以て加船ハ早也
 争ふ故み見物の楮人とも家鴨成放流也或ハ酒壺の内み賞銀何程姓名
 何某と記したる書付成入口封じ水上み流す成竜船の者先を争ひて
 取得す成勝ると福建の地方み長五二間幅二間餘の船を造り
 競渡は竜頭其外旗傍等ハ或ハ銅羅太鼓等打あり數十人並
 把競渡也を官所より許成受かみあり成敢て禁む事ハ似く
 多人數集りつる事ハ爭論等ありやうに制をすもの何れハ代
 有らあつたふと事ハ審みらばとも往古とも屈原を吊ふ為乃
 遺俗ありと云傳ふ



年中行交

十九

龍船



福^く建^た競^き渡^わ船^{ぶね}



○五月十二日の關聖帝歸天の祭日二月八月上旬の戌の日成春秋の祭日
 神廟何れも祭記あり諸人信仰の神故家々神像(香燭三牲種々供物
 を一深く尊敬を)○同日成竹酔日と唱(竹を裁まは根付家系中
 云傳ふ)○梅雨中濕氣成拂ふる先蒼朮を林火尚又書房の芸香
 を林火足の書籍の蠹魚成製する先あり○六月六日天の氣快晴
 且ハ諸人多く書籍衣服等を曝す○同日水成貯之將画油を製
 する者あり其制法等詳あり○同日炎暑の節大蒜を搗凍瘡の所
 用塗又瓦の目焼くを當止ハ其冬凍瘡生せしむる
 ○暑中氷を賣者あり是を須(魚菓物等を冷しあはる盆盛
 見ものみ以別々遠路魚成運不時氷を以損せざる換み致し少く

年中行事



氷廠

年中行夏

廿一

魚商人の目く百斤二百斤で買廻鮮魚魚一竹の價 銀三四文程右の氷貯入
 方と寒の内山中陰冷の場前水深九二三丈滴さ三四丈の穴を掘内
 火成林地地搗壁め数万斤の氷を入上石を置以又土をぬく氣
 注漏らさうに堅く繕其上草葺の假屋を建雨水防ぐよし成
 氷廠と号く冬暑の時み至と賣出

○七月七日成巧日と唱露臺

卓成居菓子菓物みく七品 品物きく 針七本結糸七を成
 牽牛織女の二星み借 夜半み至を幼女とを舞一草を
 借くさる針糸成通は糸を穿針乞巧とふ

正四十二

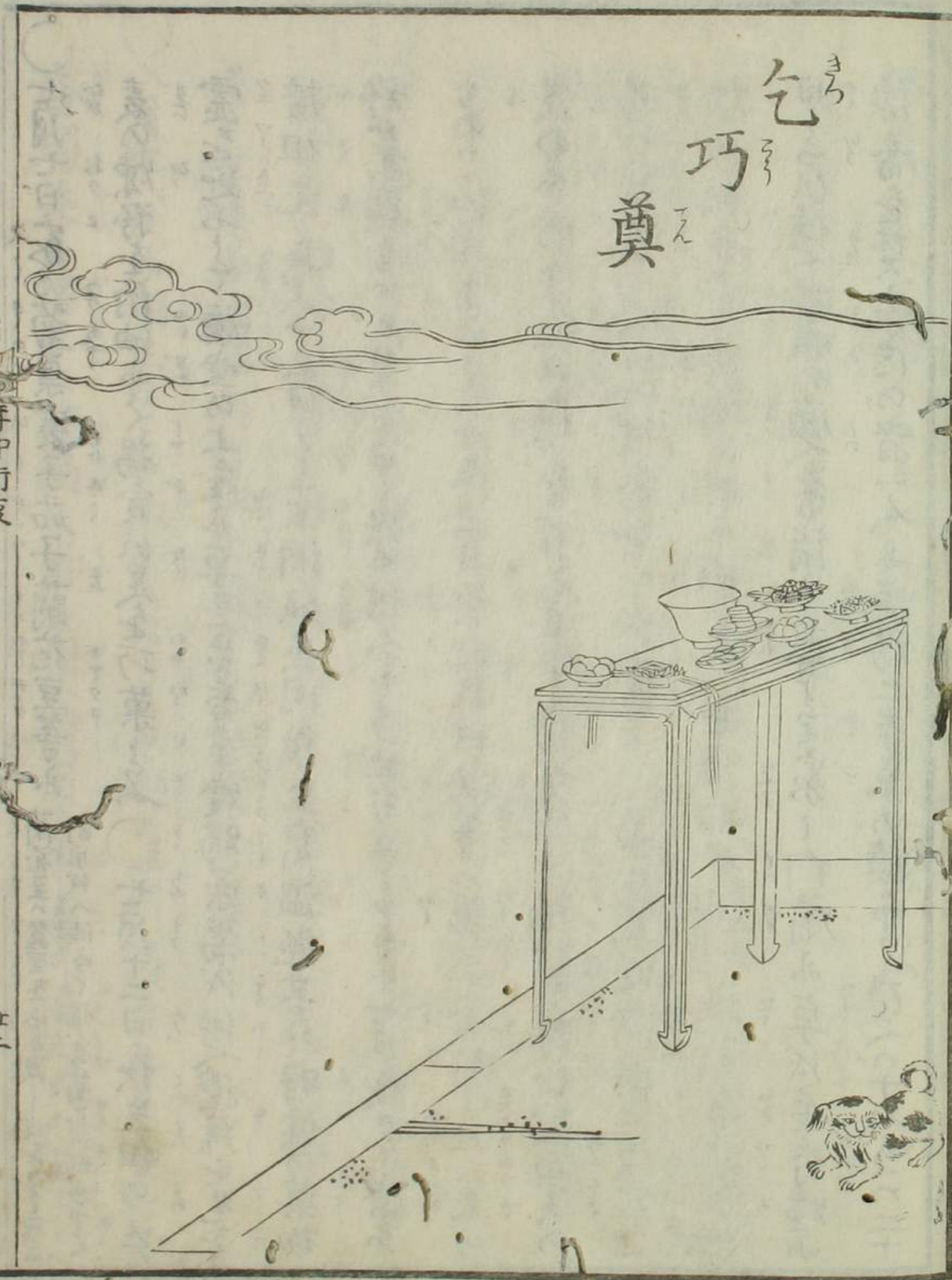
乞巧奠

乞巧奠

乞き
巧こ
奠え

年中行夏

廿二



○七月七日家々菊葉菱子茄子蘭花豆等其の豆は蠶豆を少く混入し皮を去り四角に切り油の中揚ぎ蘭花の形をあらん

夏の煉粉を油油中揚食は是を巧菓と云カヤクナ

○七月十二日夜先祖の亡霊を迎ふと一廳堂の上座に草を並香華燈燭茶湯代供禮拜是を

接祖先と唱ふ十三日と茶酒飯魚肉雜重腐温鮓其外時候の菓物

野菜類を十五日まで見改め供ふちり地方より十七日夜まで

もわつ江南をめぐり十五日一日祭祀供物等異ふ事れ且二年の

喪あふ内ち十二日夜一日又ち日僧を清し備経を頼むを箇々の

者の宅みく燭口の供養をせふもあつ○中元み城隍廟の陰宮を

請し祀孤あり清明の時み同し○七月晦日小の月地藏菩薩の誕

日とい傳へ地藏の廟へ香詣し暮るる家々門前み卓代並香燭小

線香を焚く家内の者一人み蠟燭二本宛の積みし障子の十人五二十

挺を竹杭チヤウキヤウに上ウヘに立タテ列ツラ絲イト焚ヤクすスはハ地チ燈トウとト云イハ

○八月三日灶神の誕日とて家々香燭並み糕を供ふ糕は黍稷をくちやす二三等にして

○八月十五八月宮の誕日とい傳へ家々露臺に卓代設斗香並み月餅

斗香ハ斗外を小形コガタに造りて灰をハイ入イ線香センカウをカ入イ月餅ハ黍稷をのりノリにニ胡麻油コウマアブをカ入イ揚アゲるル大オホ小コ有アル

撒サキ攪カキ仁ニ青皮セイヒ等をカ刻キ白砂ハクサ糖ドウをカ入イ胡麻油コウマアブをカ入イ揚アゲるル大オホ小コ有アル

西瓜スイカ梨子ライシ柿カキ等トド圓マダラ菓物カクモノのカ類ルイ代ト供ケ家内ケイノウ打ウ寄ヨシ酒食シュウシキをカ設セ明メイ月ツキをカ

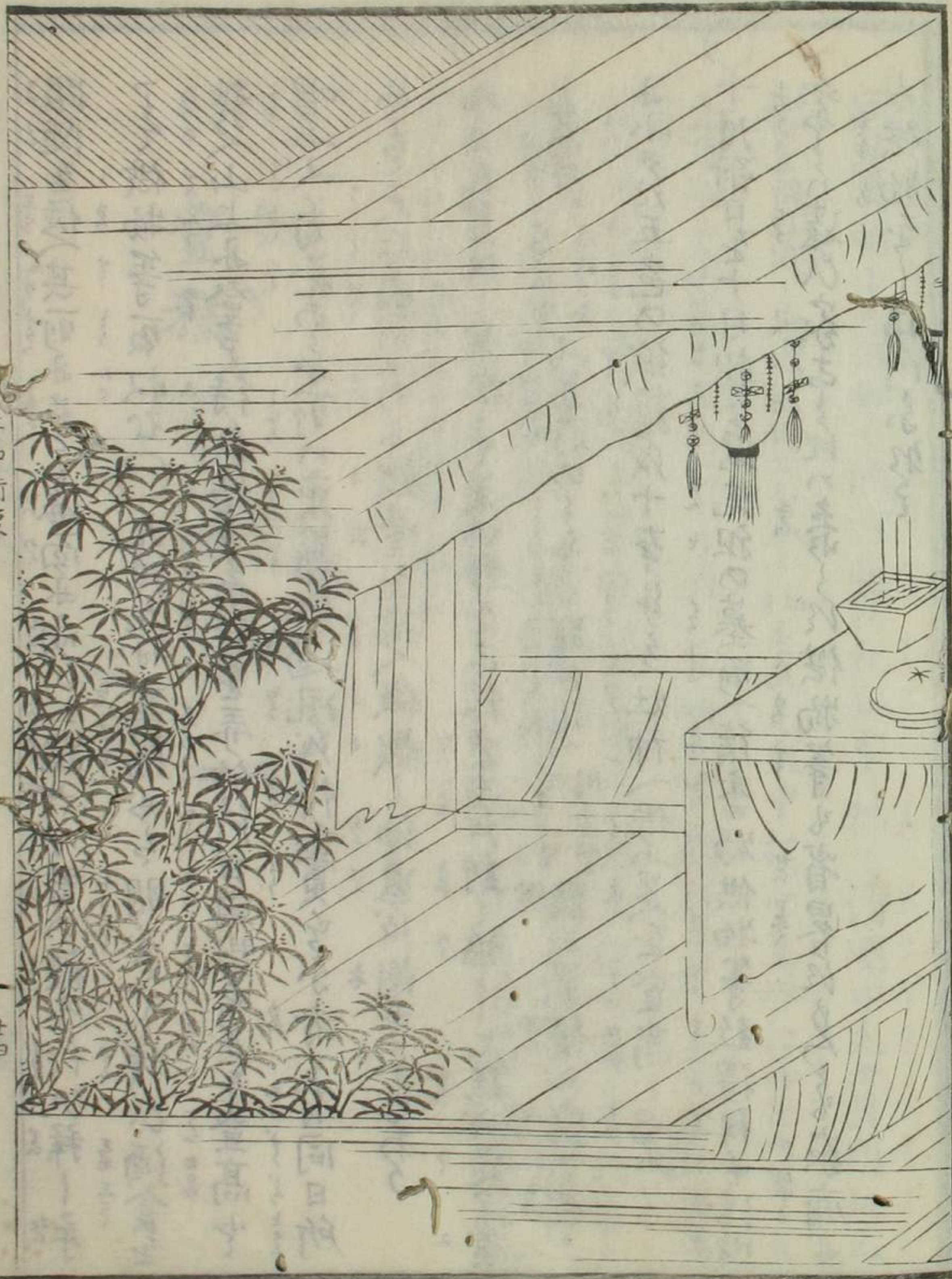
賞カウ寸サツゆユ朋友トモトモ等トド取ト寄ヨシ看カン月ツキ會カイとて酒宴シュウエンをカ催メ也ナリ

○同日み中秋佳節とて近き親類内ち月餅魚肉梨子栗トシ抄セウ等トド代ト互タガ送オウふ

○八月十五夜雨降ハ其年シ正月トシ元日ゲンニチ晴ハレ天テン多タありアリ十五日晴ハレ天テン多タありアリ元日雨アメ天テンと

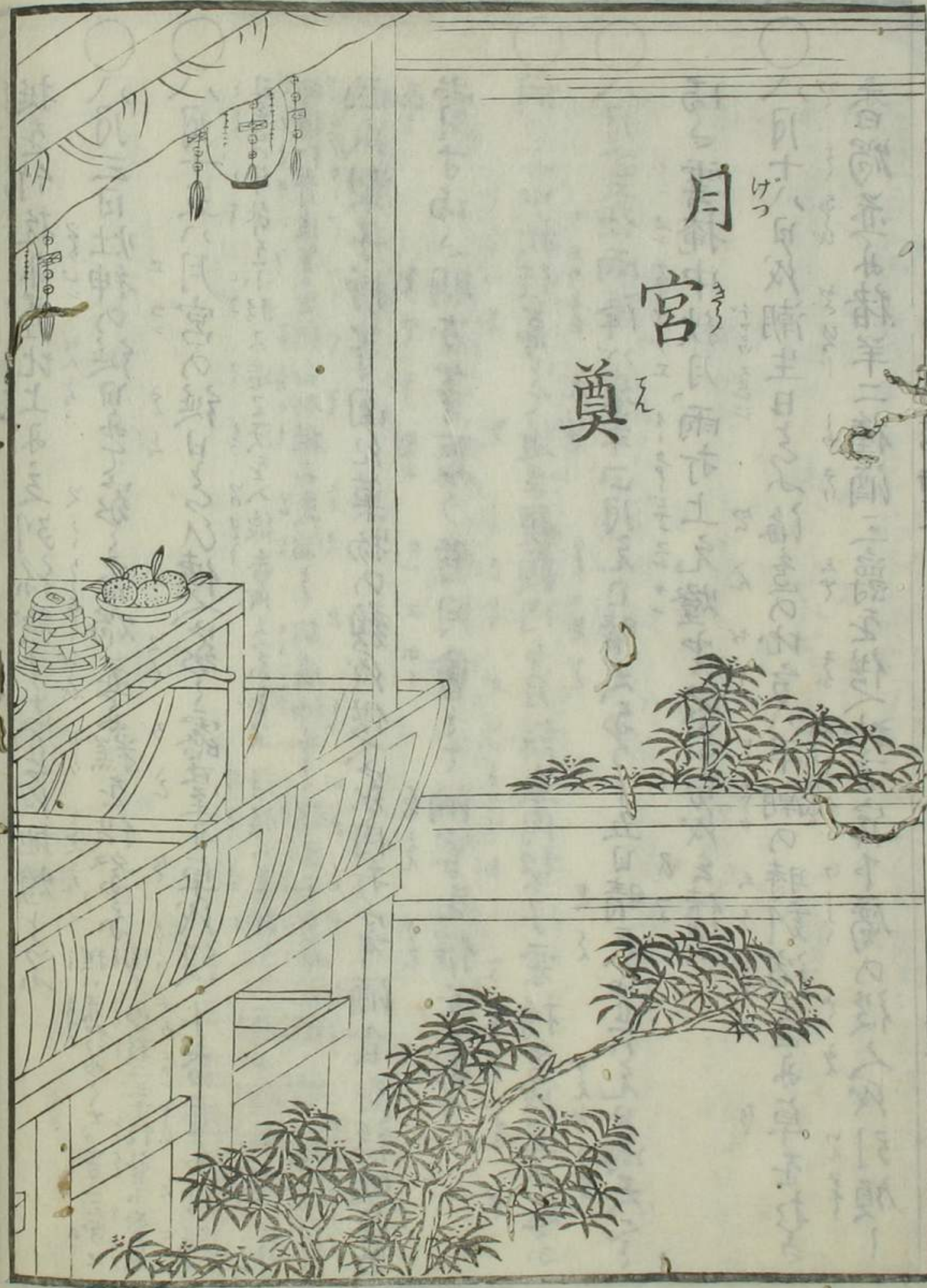
○八月十八日辰潮生日とい海邊の地方ハ平潮の時刻濱をみ卓をおさ

香燭並み猪羊二種酒三爵を供へ地方官下屬の役人シヤク引ヒキ領ネし



手中行支

廿四



月宮奠

跟随を従へ其の初めは海面に向ひ二跪六叩首の禮を行ひ拜し牙
 了て供物等取収む ○九月九日重陽母と朋友と誘ひ酒食を
 携へ山上み登り待候作り糸竹を弄ひ終日遊戯是日を登高也
 唱ふ又菊花あふ初に東離の遠風成傳へ賞を争ふ者も有同日所
 みよと天后廟の前み戲臺を掲げ做戲し神恩成謝せらる
 ○九月九日家々栗糕とて其の形をよ糸栗肉成刻し縮めて糕成造り煮
 多食以 大サ二三寸 又其形のよみ糕成掲げ 大サ一寸 祭
 小され五色の紙に綴成十存け之灶神へ供不足を登高と唱ふ
 ○十月朔日を十月朝とて先祖の墓へ詣香燭供物等致禮拜之法以
 祭りて遠の家志とてい糸水に供物等も省畧及びりとも家廟み
 ら供物を一門みおれり

○同日清明中元の如く城隍廟の祀孤あり都て清明中元十月朔此三
 祀を鬼節と唱へ亡霊を祭祀とて又元旦中秋冬至此三節を人節とて
 ○十月冬至の節に在京大小の官人年姑の如く朝服を着し是の内拜賀以
 在外の官人の寺廟へ参り竜牌を拜以一陽來復の節あり故家々
 酒宴を設け以貴族とも團子を作り吃以 團子一名團茶とも稱茶也
 大指の取ると丸くちやちや白湯めく 団子を名茶と稱茶也
 者も小ありの縮み糖中く煮る

登糕



羊中行夏

Handwritten Japanese characters at the top of the left page.

Handwritten Japanese characters at the top of the right page.



年中行夏

廿六



潮生日
官祭

○十月四日孔子の聖誕に人みよる堂上も聖像を奉る香燭代を
 禮拜に三牲等の供物を奉る

○十二月八日臘八を唱へ寺々菓粥を炊じ
 檀家も又人みよる家内も拵る者あり
一名臘八粥と云竜眼肉栗串茨菰等

○十二月十五日過すと謝神とて家々六神
 並びみ我信仰の神に三牲菓物等を供へ年中守護の神恩を謝に
六神ハ朝去壇北清竜利市招財和合を云
 法竜利市等の四神を出所詳し

○十二月十五日頃より正月半まで多々爆竹の遺風を以て厚紙めく
 ちくちくも多々長サ三四寸程の響炮あり六七寸程花炮を買又り家内
 も多々拵へ門前後庭めく夜毎新向めく放り事あり花炮と常也
 めて前より多々此の邪氣を逐ふれ云あり



年中行夏

廿七

○十二月廿日... 此其形... 掃塵又打掃... 唱入家屋を掃除を定

○十二月廿日... 掃塵又打掃... 唱入家屋を掃除を定
 ○十二月廿四日... 灶神止天の日とて家々
 香燭豆腐菓子等を供... 神を返す正月元朝...
 子供物して神を迎ふ... 且年中交り置ふ...
 天の日み副元朝未明... 札聯を何れも赤紙あり

札

聯

伍方伍帝司命灶君
 魏々聖德乾坤大
 永々皇圖日月長

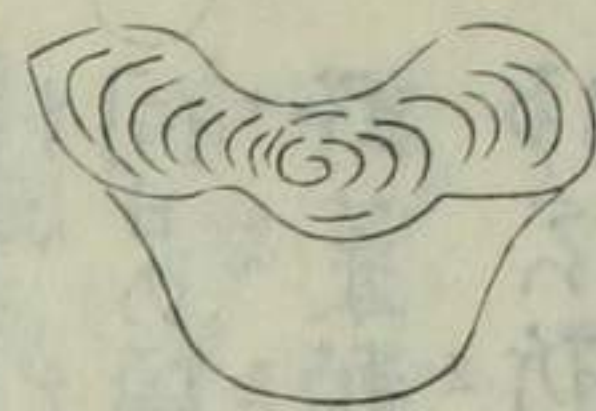
○十二月廿四日... 親類たぐひ歳暮の贈り物とて年程魚肉海參
 魚翅胡桃柿餅橘子橄欖竜眼等を送ふ

○十二月廿七日... 近き親類の内十歳前後の兒女... 互み年程橄欖胡桃竜眼橘子銀子等を送ふ是を押歳錢とす

○同日の頃寺々... 節禮のあつた物とて檀家其外にも懇意の向
 野菜類あひみ寺中あつた物とて檀家其外にも懇意の向

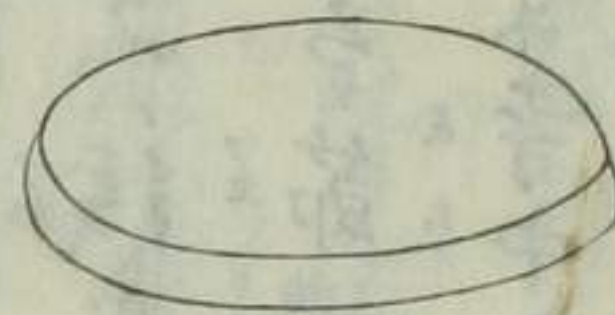
折枝... 有合... 厚く返禮を小戸も... 返礼あり

符 桃



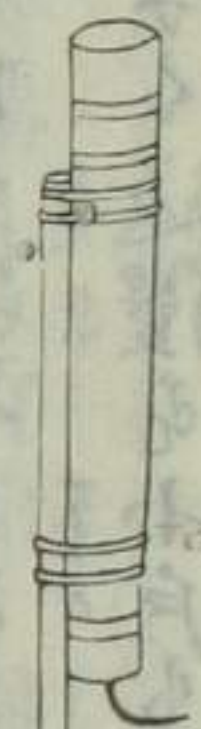
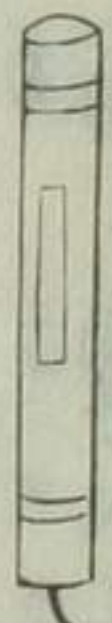
金銀錠

糕 年 鏡



響 炮

花 炮



○

除夜みち官府大戸の向桃符とて聯の中みまらふ板一對
 長門柱 龍虎朝官桃柳平升三級の圖を彩畫
 二の門の左右に掛邪氣を又庶人歡樂紙と長三尺余幅
 一尺程の赤紙に上ゆる金箔めく福の字を切付下は四方の縁に
 花形図形其中の種々の紋を彫りし指日高升加官進爵
 福自天來平升三級天官賜福の圖を指み切付
 右一尙の圖を一枚切 堂の正面上楹柱と張ふ又官府大戸の神茶鬱
 壘二神の儀 塗板の扉に畫を之前廣彩色を
 加ふ小戸の版に摺る神儀代買又神名代赤紙に書扉の左
 右に張ふ且貴賤とも家の正面板等に迎福招慶如意等を
 之を吉利の尙書とて貼ふ

年中行交

塔九

紙 樂 歡



年中行交

三十

○除夜み家打寄酒宴を設け年底の祝事を主人より銀又ハ残小

高も家族残らば百使の奴婢までおろし足を分歳と云

上み小赤紙を貼るは此方かく腰手を付か意あり

○同夜み万年糧と唱へ淘籬二つみ家と飯を盛り上み松拍の枝を挿

橘子菱子を並え日よ三日まで内室みかきなく是の家み除糧

わけて食みえうらさふ代表すか意あり

○除夜々人みよと歳を守りて寝さか者もあり

○立春の前日み府州縣ともに大歳と春牛と成あらしら

小児わに神儀成候は長束をひかか 春牛を竹中く高さ二四又み牛の

はく紙めくちと彩色は又五寸程の小牛成候しちりうら大牛の腹内み

堂みみ世と歳み春牛成挽せ郊外み並其地の幸宮ハ衣服をわ

免轆子みあり下屬の吏役と移み春花をわ

大歳一名世神
土母く七八歳の
梅花桃花等成
ちりうらうら

萬年糧



一、はなわらふ 出迎之金鼓を打涼傘を以て行列し行春を告ぐく都外
花枝あり 花枝あり
 を免ぐと並み城市みむ入ふと成迎春と不知府堂上み清く
かき 置線 堂上み清く 羽立日立春の時刻みつる諸官吏成清く出
き 下役等銘々竹杖棒成りち金鼓をあり守護して廟裏み送る
さ 至り太歳を安置し持る棒みく大牛をうちをぬき肉の小牛成
と 取出し太歳の前み居るは足豊年の吉瑞を表すふ意あり又
な 太歳を上踏み送る途中みく市中の小児も大豆を以て牛成
ら 打ちしとみ打當ふは疱瘡輕くしひ傳ふ



年中行夏

三十二

太歲たいさい

春牛はるうし

迎春むかえはる

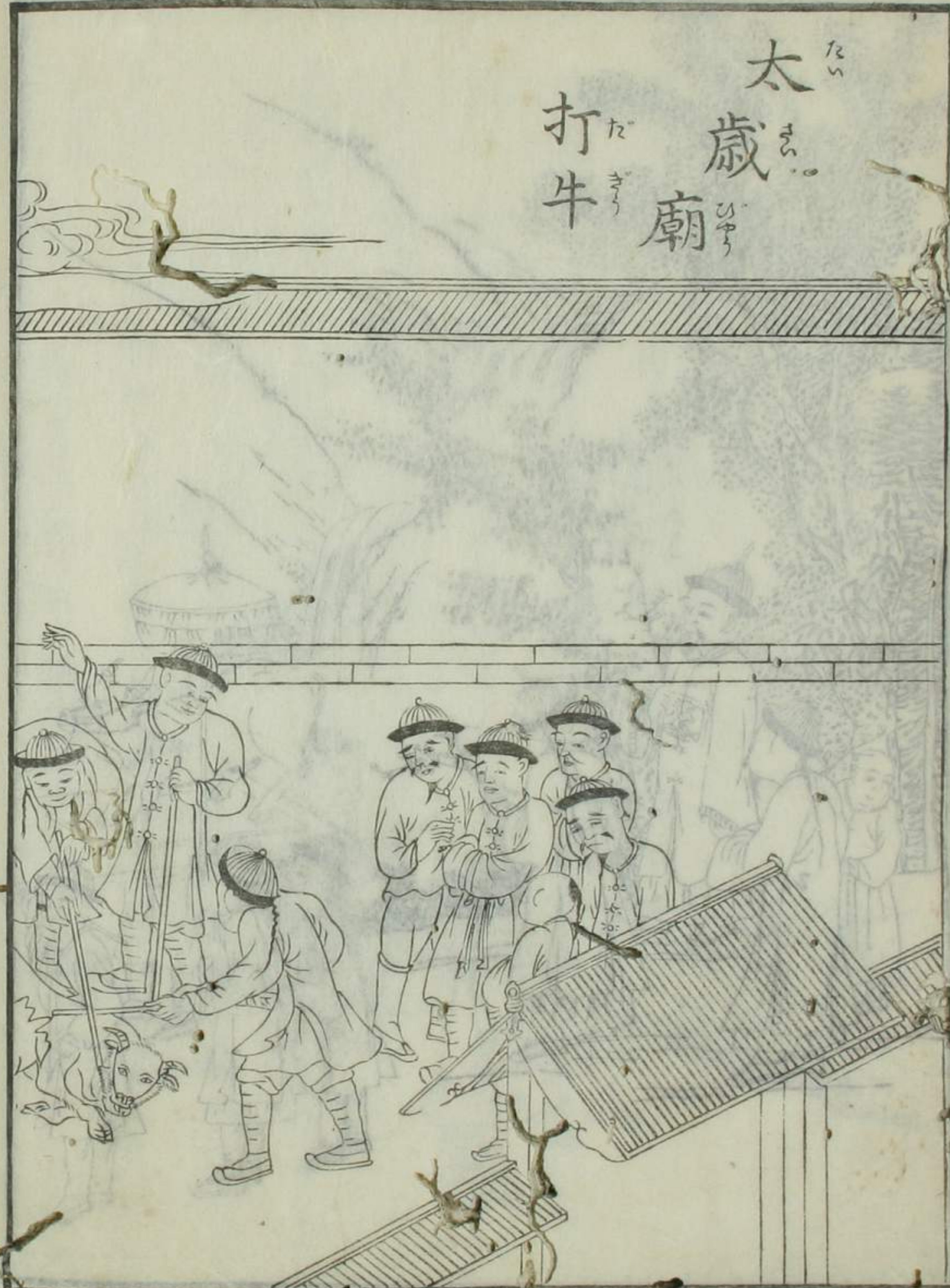




年中行夏

三十三

太歲廟
打牛



7
758

章

300

清俗紀聞卷之一

